

お世話になっております。

皆さまの学校では順調に第2学期をスタートされましたでしょうか。

学業に加え、文化祭・修学旅行等の行事も目白押しで、既にご多忙な先生方も多いことでしょう。

さて今回は、現在制作中の当財団の Web マガジン『Traffi-Cation』秋号（11月完成予定）の特集についてお知らせします。

『Traffi-Cation』では、毎号巻頭特集として交通社会に関する様々な動きを取り上げています。秋号では、自動車免許を返納した高齢者を含むすべての人に、移動の自由を提供する電動カート（一人乗り）について焦点をあて、  
“自ら移動する”ためのモビリティとしての位置づけ、普及への課題を探ります。  
高齢者や身体の不自由な方向けにはシニアカーとして販売されていますが、より幅広い年齢層・用途での利用を前提にしたモデルの開発、市場投入に向けた動きも活発になってきています。

その中で、既成概念にとらわれない新しいスマートモビリティ「RODEM」で、誰もが暮らしやすい社会の実現を目指す(株)テムザックに取材をしてまいりましたので、その一部をご紹介します。

取材時の写真を Facebook に掲載していますので、どうぞご覧ください。

<https://www.facebook.com/jaef2019/>

#### ◆ (株)テムザック

1953年創業で、自動車部品商、食品用ベルトコンベア設計・製造等を経て、1990年代からロボット開発を主要事業としています。様々な業種の現場で働くロボット（建築、医療からテロ対策まで）の開発・生産で培ったノウハウを、誰もが暮らしやすい社会を実現するためのモビリティ型“乗れるロボット”事業の進展に注力しています。

#### ◆ “馬乗り型”車いす「RODEM」

ただ人を運ぶ乗り物としてではなく、乗員の生活全体を支援することを目的としているため、既存のハンドル型電動車いすとは異なり、車両後部から乗るようになっています。シートが40cm上下に可動し、ベッドから移る、洗面所で手を洗う、食事を摂る等生活の各場面で使い易い構造です。加えて、乗車時にも歩行者との視点の高さの差が少ない（見下ろされない）、ユニークなデザインの採用により一般の人が乗車しても違和感を与えないことを特長としています。

#### ◆ 「RODEM」実証実験の事例

2018年7月、嵐山周辺を訪れる観光客向けにRODEMを無償で貸出しました。公共交通機関バス停から観光名所が多い嵯峨野までは30分ほど歩くため、ラストワンマイル対策としての適性を確認しました。

実験車両に周辺観光地の推薦・経路案内、多言語翻訳等ができるタブレット端末を搭載したことで、土地勘のない観光客（特に外国人）からその有用性に対する高い評価を得られたほか、女子高生等の若年層からはデザインへの好意度が高かったとのことでした。  
実証実験では、モビリティとしての実用性をより高めるためには現在の走行速度の規制値（電動車いすは時速6kmが上限）ではニーズに応えきれないことも分かり、現在その対応にも取り組んでいます。

今回の取材は、同社代表取締役 CEOの高本陽一様にご対応いただきました。

これまでの規格に無い仕様であるRODEMの市場導入における労苦など、新たなものを創出し、世の中に浸透させていくことの難しさ、実状を率直に話していただきました。

新たなモビリティとしてプレゼンスを確立するための課題とその可能性等、  
今回お伝えしきれない詳細につきましては、是非「Traffi-Cation」秋号にてご覧願います。  
Web サイトへの掲載日程は皆さまに当メールマガジンにて事前にお知らせいたします。

過去の「Traffi-Cation」は WEB サイトにてご覧になれますので、以下 URL よりご参照ください。  
<http://www.jaef.or.jp/6-traffi-cation/6-traffi-cation.htm>

日本自動車教育振興財団 メルマガ事務局

---

本メルマガへのご登録内容の編集・解除は、下記よりお願いします。

▼登録内容編集

<https://matomete-mail.com/bm/p/f/tf.php?id=149239601>

過去に配信したメルマガは、以下 URL よりご覧になれます。

▼バックナンバー

<http://www.jaef.or.jp/7-mail-magazine/index.htm>